

NEWS RELEASE

<<http://www.takara-bio.co.jp>>

平成22年6月9日
TB10-323

ニュージェン社の核酸サンプル調製用試薬の 販売を日本・中国・韓国で開始

タカラバイオ株式会社(社長:仲尾功一)と、米国ニュージェン社(NuGEN Technologies Inc.、サンカルロス市)は、微量核酸増幅用試薬を含む、ニュージェン社の核酸サンプル調製用試薬全製品に関する非独占販売契約を締結しました。当社は、日本・中国・韓国において、当該試薬の販売を2010年6月21日より開始します。

遺伝子解析の研究分野では、高速シーケンシング、リアルタイムPCR、マイクロアレイ(DNAチップ)などの解析技術が急速に普及しており、様々な疾患や生命現象の解明等に利用されています。

これらの解析には一定量の核酸(DNAやRNA)を必要としますが、核酸の量が不足する場合には、あらかじめ解析サンプル(細胞・組織など)に含まれる核酸の増幅を行います。この増幅を行う際、遺伝子発現量の解析といった定量性が求められる研究では、各核酸の相対的な量の比を保持したまま増幅させることが重要となります。しかしながら、解析サンプルが極微量(50ナノグラム以下)しかない場合、PCR法などの従来の核酸増幅法では、相対的な量の比を保持した増幅を行うことが難しく、研究を行う上での問題となっていました。

今回販売する試薬には、SPIA(Single Primer Isothermal Amplification)法と呼ばれる核酸増幅技術が利用されています。SPIA法は、極微量の解析サンプルからでも、相対的な量の比を保持したまま核酸を増幅させることができる微量核酸増幅法です。当社の遺伝子解析用試薬のラインアップにニュージェン社の試薬が加わることで、iPS細胞研究やがんなどを対象とした医学研究のような、極微量のサンプルを解析対象とした顧客のニーズに応えることが可能となります。

また、当社の遺伝子解析受託サービス(高速シーケンシング受託、リアルタイムPCR解析受託、マイクロアレイ解析受託など)においても、ニュージェン社試薬を用いた微量サンプル対応メニューの提供を併せて開始します。

今回の遺伝子解析研究用の製品ラインアップおよび受託メニューの拡充により、遺伝子・細胞機能の解析研究分野における売上増を目指します。

ニュージェン社製品例



製品・サービスの詳細やご購入については、当社営業部営業企画担当(TEL:077-543-7231)にお問い合わせください。

当資料取り扱い上の注意点

資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

この資料は、6月9日に京都経済記者クラブに配布しています。

この件に関するお問い合わせ先
タカラバイオ株式会社
バイオインダストリー部
Tel 077-543-7235

<参考資料>

【ニュージェン社の概要】

会社名 : NuGEN Technologies Inc.
設立 : 2000 年
代表者 : Elizabeth A. Hutt, CEO
住所 : 201 Industrial Road, Suite 310
San Carlos, CA 94070 U.S.A.
事業概要 : ニュージェン社は、革新的な RNA・DNA のサンプル調製技術を提供しています。当社の迅速、簡便な研究用試薬は、あらゆるアプリケーションに適用できる、様々な材料由来の遺伝子サンプルの調製を可能としています。
ホームページ : <http://www.nugeninc.com/nugen/>

【語句説明】

高速シーケンシング

高速シーケンサー（次世代シーケンサー）と呼ばれる、数百万から数億個の塩基配列データを並列に大量取得することができる装置を用いた塩基配列解析です。当社では、ロシュ社の GS FLX、イルミナ社の GAIIx、ライフテクノロジーズ社の SOLiD3Plus の 3 種類の高速シーケンサーを導入して、受託解析サービスを提供しています。

リアルタイム PCR 法

従来の PCR 法は、サーマルサイクラーという機器で目的 DNA を増幅した後、増幅産物を電気泳動で解析するという手順で行われています。リアルタイム PCR 法では、サーマルサイクラーと分光蛍光光度計を一体化した機器を用いて、PCR での DNA 増幅産物の生成過程をリアルタイム(実時間)で検出し、解析できます。DNA 増幅産物の生成の過程を連続して観察できるため、より正確な定量が可能となります。また電気泳動を行う必要がないため、解析時間の大幅な短縮が可能となります。

PCR

Polymerase Chain Reaction (ポリメラーゼ連鎖反応) の略称です。温度サイクル装置(サーマルサイクラー)を使用し、微量の DNA を数時間のうちに数百万倍にまで増幅する技術です。

マイクロアレイ

DNA チップとも呼ばれる、多数の DNA 断片がスライドガラス等の基板上に高密度に配置されたチップを用いることによって、数万種類といった遺伝子の発現量を一度に調べることができる技術です。

SPIA (Single Primer Isothermal Amplification) 法

SPIA 法は、DNA/RNA キメラプライマー、DNA ポリメラーゼ、RNaseH を利用した等温反応によるニア DNA 増幅法です。増幅前のサンプルに含まれる各 DNA や RNA の相対的な量の比を保持したまま、増幅を行うことができます。

iPS 細胞

体細胞に、再プログラム化に必要な数種類の遺伝子を導入し誘導される分化多能性を獲得した細胞のことです。2006 年に京都大学山中伸弥教授らのグループにより、この現象が発見され人工多能性幹細胞 (induced Pluripotent Stem Cells: iPS 細胞) と名付けられました。iPS 細胞は、ES (Embryonic Stem) 細胞とほぼ同等の分化多能性を示すことから、薬剤開発、種々の疾患の病態解明や再生医療への応用が期待されています。